

(仮訳)

プレス・リリース

2020年11月30日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、新型コロナウイルス感染症のグローバルな銀行システムに対するリスクを軽減するために継続中の協調的なアプローチにコミットし、バーゼル銀行監督委員会による作業の将来の方向性を承認

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（以下「GHOS」）は、本日、新型コロナウイルス感染症のグローバルな銀行システムに対するリスクを軽減するための協調的なアプローチを承認した。

グローバルな銀行システムは、世界金融危機後に実施されたバーゼルⅢの規制改革の効果もあり、十分な資本と流動性を持ってコロナ危機に突入した。頑健な規制枠組みは、銀行の健全性に対する信頼を支え、国際的な競争上の公平性の維持に役立っている。

パンデミックの発生時にバーゼル委が適時に実施した措置と、未実施のバーゼルⅢ基準の実施時期を変更する GHOS の合意は、これまで銀行の強靭性を支えている先例のない広範な財政・金融支援措置に加わるものとなった。

バーゼルⅢの資本及び流動性バッファは、銀行がショックを吸収し、信用力の高い家計や企業への貸出を継続するのに役立つ。現在は、資本及び流動性リソースをこのように用いることが優先されるべきである。GHOS のメンバーは、現在のストレス期において、かつコロナ危機が収束するまでは、これらのバッファを慎重に取り崩すことが適切であるというバーゼル委による度重なるガイダンスを強く支持する。危機後、監督当局は、経済や市場、銀行特有の状況を考慮し、バッファを再建させるために十分な時間を銀行に提供する。

コロナ危機が展開し続けるにつれ、グローバルな銀行システムに対する脆弱性とリスクは変化していくだろう。こうしたもとの、GHOS のメンバーはバーゼル委に対し、グ

グローバルな競争上の公平性を維持し、規制による分断を避けるために、危機への対応における協調的なアプローチを引き続き追求することを求めた。このアプローチは、以下の要素で構成される。

- 新型コロナウイルス感染症に伴う、グローバルな銀行システムに対する脆弱性とリスクの継続的なモニタリングと評価、及び危機時の監督上の知見の情報共有
- バーゼル枠組みに内在する柔軟性の適切な活用の奨励
- バーゼル枠組みの目的と統合的であり、かつ適時に解除されることを確保するための、銀行システムに対する現在のリスクを軽減するための一時的な調整の実施のモニタリング
- 必要に応じた、慎重な検討を経たもとの、追加的なグローバルな措置の協調した採用

GHOS のメンバーはまた、バーゼルⅢ枠組みの全ての要素の完全、適時、かつ統合的な実施への期待を全会一致で改めて強調した。こうした実施は、銀行が将来の危機に耐えられることを確実にするこれらの基準の便益の確保に資する。

この点について、GHOS のメンバーは、バーゼルⅢ枠組みに関する現時点での合意をもって、世界金融危機後のバーゼルⅢの政策アジェンダに明確な終止符を打つことに合意した。バーゼルⅢへの更なる潜在的な調整は、いかなるものでも、その性質上限定的なものとなり、バーゼル委の評価作業と統合的なものとなるだろう。今後、バーゼル委のバーゼルⅢ関連の作業は、①整合性評価プログラム（RCAP）を通じた、これらの基準の実施、適時性、整合性のモニタリング、及び②コロナ危機の教訓も考慮に入れた、これらの規制改革の有効性に関するエビデンスに基づいた評価の完了、に焦点を当てていく。

GHOS はまた、バーゼル委の規制・監督上のアジェンダの焦点を、グローバルな銀行システムに対する将来のリスクと脆弱性に当てるための、バーゼル委からの一連の提言を承認した。これらの提言は、バーゼル委が過去 1 年間にわたって実施した戦略的レビューに基づくものである。バーゼル委の将来の作業は、銀行セクターの構造的な傾向、進行中の金融のデジタル化、及び気候関連金融リスクを含む、新たに台頭するトピックに焦点を当てていく。